

保育らくおが

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 増本 律秀 編集者 楠野 吉弥



vol.136 令和8年度 1号

保育士会会長挨拶	2
新執行部	2
就職フェアについて	3
教育委員会と架け橋プログラム	4~6

新規採用職員人権保育研修会で学んだこと ..	7
私の園の取り組み	8
編集後記	8



福岡市私立保育士会
会長挨拶

天野 恵



このたび、福岡市私立保育士会の会長を拝命いたしました、あゆみらい保育園の天野恵です。

歴史ある福岡市私立保育士会の会長という大役を拝命し、その責任の重さに身の引き締まる思いです。一方で、多くの保育者の仲間とともに福岡市の保育について考え、学び合いながら、より質の高い保育を目指していただけることを大変光栄に感じています。

私はこれまで保育の現場に立ち続ける中で、「子どもにとってどうなのか」という問いを大切にしてきました。保育を取り巻く環境は時代とともに変化し、私たちに求められる役割もますます広がっています。しかし、どのような時代であっても、保育の中心にいるのは子どもです。一人ひとりの思いや育ちに寄り添い、その子らしく生きていく力を支えることが、私たち保育者の大切な役割であると考えています。

一方で、その問いに向き合い続けるためには、経験や熱意だけでは十分ではありません。保育は専門職です。経験から学ぶことはもちろん大

切ですが、それと同じように理論や根拠に学び続ける姿勢が求められます。保育実践を振り返り、対話し、学びを深めることで、保育の質は高まっています。経験と理論の両輪があってこそ、私たちはより確かな実践へと歩みを進めることができるのではないのでしょうか。

近年、保育現場では人材確保や人材育成、支援を必要とする子どもへの対応など、多くの課題に直面しています。そのような時代だからこそ、一人で抱え込むのではなく、仲間とつながり、それぞれの実践や悩みを共有しながら、ともに考え続けることが大切ではないのでしょうか。

福岡市私立保育士会は、研修を通して学ぶ場であると同時に、人と人とのつながる場でもあります。経験年数や立場を超えて語り合い、互いの実践から学び合い、新たな気づきを得られる場でありたいと願っています。また、保育の専門性だけでなく、組織づくりや人材育成についても学び合い、福岡市全体の保育の質の向上につながる活動を進めてまいりたいと考えています。

私自身も皆さまとともに学び、問い続けながら、福岡市の保育の発展に微力ながら努めてまいります。

今後とも福岡市私立保育士会へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

福岡市私立保育士会役員名簿(令和8年度)

会 長	天 野 恵	(あゆみらい保育園)
副会長(総務部)	玉 井 博 子	(玉川保育園)
副会長(研究会)	川 寄 若	(内浜保育園)
副会長(総務部)	寺 本 葵	(リトルワールドあゆみ保育園)
副会長(キャリアアップ研修)	山 浦 加奈代	(西都保育園)
副会長(一般研修)	中 村 知 美	(弥永保育園)
副会長(総務部)	朝 日 直 子	(井尻保育園)
会 計 リ ー ダ ー	末 武 あき子	(アイグラン保育園千早)
会 計 副 リ ー ダ ー	三田村 法 子	(室見ガーデン保育園)
会 計	木 塚 広 子	(高宮くすくすの丘保育園)
会 計	吉 田 絵 里	(白百合保育園)
会 計	岩 丸 夕 葵	(夢の木こども園)
会 計(補助金)	江 口 和 代	(いとぼつぼ保育園)
会 計(補助金)	川 部 絵里香	(第二高取保育園)
会 計(補助金)	前 川 佳 子	(五十川保育園)

企 画	木 原 由 衣	(栄光保育園)
企 画	野 中 亜紗実	(はかた愛育保育園)
広 報	渡 邊 麻 衣	(ゆめの森こども園)
運 営	服 巻 麗 華	(アスク東比恵保育園)
運 営	中 村 文	(東はこざき保育園)
運 営	川 口 昌 美	(若草保育園)
運 営	安養寺 美 里	(まいづるちとせ保育園)
研 究 会	松 下 とし子	(野芥保育園)
監 事	小 幡 悦 子	(星の原団地保育園)
監 事	石 井 誠	(いちざきみんなの家)

※福利厚生共済委員

(木戸 美果 佐々木 美和 栗屋 直美 関本 美奈 ~2028/4/30)

※保育園幼稚園保健部会部員(天野 恵 小幡 悦子)

※全国食育推進委員(佐藤 熱美)



6月27日（土）、アクロス福岡で福岡市保育協会主催の就職フェアが開催されました。市内75カ園が参加し、過去最高となる370人の来場者で大変賑わいました。

就職フェア盛況 ―過去最高370人が来場―

機関紙編集委員 西尾 恭介



来場者の半数以上が7ブース以上を巡り、真摯に施設情報を探す姿が印象的でした。フェアをどこで知ったかアンケートを取ると、80%以上の方が保育士養成校からの声掛けをきっかけにしていました。学校と業界の連携がしっかりと機能しています。



求職者の情報収集手段も変わってきています。インスタグラムを活用する方が最も多く、次に学校の求人票、ホームページと続きます。デジタル活用が、若い世代の就職活動の中心になっています。

そして注目は、来場者が重視する要素です。「給与面などの処遇」が最優先で、次に「保育方針」「人間関係」と続きました。求職者にとって、働き方の透明性や職場の雰囲気がいかに大切であるかが分かります。



このフェアは、保育現場と求職者の想いをつなぐ貴重な場となっています。次回開催は8月29日（土）です。福岡市全体で人材確保に向けた取り組みを進めていくことの重要性が改めて認識されました。

教育委員会ってどんなところ？

「保育現場と小学校をつなぐ「架け橋プログラム」最前線」

取材先…福岡市教育委員会 指導部 学校企画課
 課長 石橋 様／主任指導主事 兼 保幼小中連携主査 秦 様
 取材…福岡市保育協会 広報調査部

「教育委員会」という言葉を聞いて、どんなイメージを持ちますか？

「小学校を管轄している行政機関」

「お堅い組織」——そんなイメージを持っている保育者は少なくないかもしれません。しかし今、教育委員会は保育現場に積極的に向き合い、子どもたちの学びをつなぐ取り組みを力強く進めています。

今回、福岡市保育協会 広報調査部は、福岡市教育委員会 指導部 学校企画課を訪問。保幼小連携の最前線に立つおふたりに、架け橋プログラムへの思いとその現状を忌憚なくお話しただきました。

■教育委員会ってどんなところ？

そもそも教育委員会とは何をしているのでしょうか。市立の小・中・特別支援学校の教育行政を担う機関であり、各学校の教育課程の編成指導、教職員の研修支援、そして地域の教育連携の推進などを幅広く担っています。

「保育園の皆さんから見ると、遠い存在に感じるかもしれません。でも、実際には一緒に地域の子どもたちのことを考えたいと思っている仲間です。」

ハードルなんてないんですよ」と石橋課長は笑顔で話します。

学校企画課は其中でも、各校種の学びをつなぐ「接続」の取り組みを担う部署。特に近年は保育・幼稚園から小学校、そして中学校へと続く0歳から15歳の学びの連続性を大切にした連携推進に力を入れています。

■架け橋プログラムに取り組む背景

今、国をあげて推進されている「架け橋プログラム」。これは、こども家庭庁が主導し、就学前の保育・幼稚園（年長）と小学1年生の学びの連続性を確保しようとする取り組みです。では、なぜ今、福岡市教育委員会がこれに本腰を入れているのでしょうか。

そのきっかけの一つは、福岡市が2年前（令和6年度）に「自律的な学

び」を中心に据えた学習指導の方針を新たに打ち出したことにあります。

「子どもが自分で考え、判断し、行動し、振り返る」——そんな学びへの転換を市全体で進める中で、石橋課長はあることに気づきました。

【石橋課長】「よく考えたら、保育園や幼稚園の子どもたちって、もともとそれをやってるんですよ。遊びに没頭して、友だちとやり取りして、自分で試行錯誤する。それがまさに自律的な学びの原点じゃないかと思って。」

就学前の「遊びを通した学び」と、小学校以降の「自律的な学び」は、もともと地続きだった。その気づきが、保育現場との連携をより積極的に推し進めるエンジンとなりました。

さらに個人的なエピソードも背景にあります。石橋課長が以前、小学校の校長を務めていた頃、コロナ禍で入学式が大幅に遅れた時期がありました。「どんな子どもたちが上がってくるん

だろう」という思いから、近隣の保育園・幼稚園へ自ら足を運んで園長先生に会いに行ったといいます。

【石橋課長】「特に構えることなく、ピンポンを押して『隣の校長です』とあいさつしたら、普通に話

ができた。そうか、つながろうと思えばつながるんだと実感しました。」

この体験が、トップ同士のつながりの大切さを石橋課長に改めて気づかせました。

■架け橋プログラムの本質とは

架け橋プログラムというと、「保育園と小学校が一緒に作るカリキュラム」をイメージされる方も多いかもしれませんが。しかし石橋課長の考えは違います。

【石橋課長】「一つの小学校にたく

さんの保育園・幼稚園から子どもたちが入学してきます。それぞれに独自の保育があり、方針がある。統一したプログラムを押しつけることはできないし、するべきでもない。大切なのは、0歳から15歳の学びの共通認識をみんなで持つことだと思っています。」

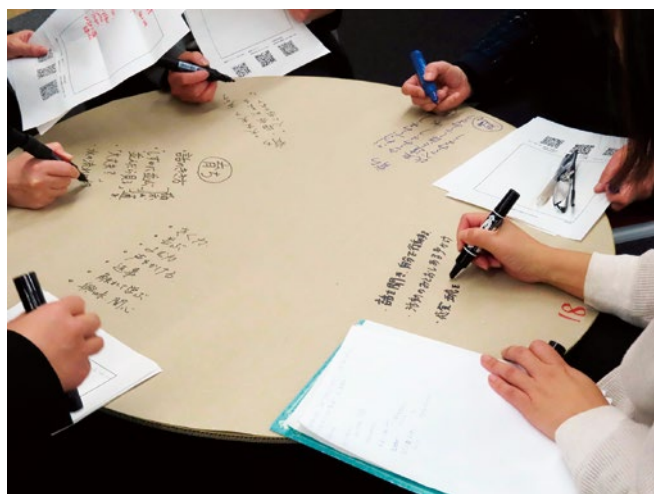
英語教育を大切にしている園も、運



動に力を入れている園も、それでいい。やり方は違っても、子どもたちの学び方の根っこにある共通の価値観——そこを大人同士が共有できれば、子どもたちの学びはおのずとつながっていくはずだ、というのが架け橋プログラムへの石橋課長の思いです。

そしてもう一つ大切にしたいのが、大人同士の相互学習です。保育現場では当たり前のように実践されていることが、小学校にとっては知らない宝であることも多い。秦主任指導主事はこう語ります。

【秦 主任指導主事】「保育士の方々が子どもをどんなふうに見て、どんな環境を作っているか——それを小学校の先生が知ることで、1年生への関わり方が変わります。逆に、小学校での学びを保育士さんが知ること、就学前の育ちがより豊かになる。お互いに学び合えることがたくさんあるんです。」



■ **動き始めた具体的な取り組み**

こうした考えのもと、福岡市では今年度から具体的なアクションが始まっています。象徴的なのが、こども未来局・教育委員会・保育協会・幼稚園連盟・各校種の代表が連携して企画した「対面型の合同研修会」です。



今年1月に開催された第1回研修会には、保育園・幼稚園側から約110名、小学校側から約140名、計240名あまりが一堂に会しました。参加者は丸くなくて対話するグループワーク形式で、普段なかなか話せない保育者と小学校教員が「はじめまして」からスタート。それぞれの子ども観や保育・教育観を率直に語り合いました。

さらに今年5月には第2回を開催。参加希望者が多すぎてお断りが出るほどの反響で、保幼小の連携への関心の高まりを実感できる結果となりました。今後は年に最低1回の開催を継続



しながら、参加者へのアンケートで課題を収集し、着実に積み重ねていく方針です。

石橋課長が理想として描くのは、「研修会や交流会が地域の文化になること。」「この地域には、保育園と小学校が集まる会が毎年あるんだ」という文化が根付けば、担当者が変わっても取り組みは続いていく。そのための仕組みをつくるのが今の使命だと力を込めます。

■ **保育現場へのメッセージ**

—— **まず一歩を踏み出して**

では、私たち保育現場はどう動けば

よいのでしょうか。石橋課長からは、二つの具体的なメッセージが伝えられました。

一つ目は「遠慮なく小学校へ直接連絡してほしい」ということです。石橋課長は保育園側の心理的なハードルに気づいています。「確かに小学校の校長先生は忙しい。でも、だからこそ、思いを伝えるなら遠慮なく直接電話してください。園長先生から校長先生へ、トップ同士で直接つながることが大切です」と明言します。

【石橋課長】「教育課程は校長先生の裁量で決まります。思いを伝えるならトップに直接。『うちの地域の子どもたちのことを一緒に考えませんか』と電話一本かけてもらうだけでいい。校長先生たちは、待っていますよ。」

今後、文部科学省が進める教育課程の柔軟化により、小学校1年生に「裁量的な時間」が生まれる見込みです。そこに保育園・幼稚園との交流を組み込むことも可能になります。校長先生の裁量はさらに広がる方向にあり、今つながりをつくっておくことが、数年後に大きな実を結ぶはずですよ。

二つ目のメッセージは「保育園同士の横のつながりを大切に」というこ

と。石橋課長は、保育園間の横の連携がどのように行われているかをぜひ知りたいといいます。養成校の同期とのネットワーク、地域のグループ研修など、保育現場ならではのつながりが架け橋プログラムの広がりにも直結するからです。

安全対策と個別対応

小学校はもっとオープン

小学校への連携を考えたとき、「安全管理が厳しくて入りにくい」と感じている保育者もいるかもしれません。しかし実態はどうでしょうか。

石橋課長によると、小学校は動線管理・施錠・監視カメラなどで安全を確保しており、外部が思うほど「入れない」わけではありません。名刺を一枚渡して声をかければ、快く受け入れてもらえます。「ピンポンを押すのがハードルに感じるかもしれませんが、押してもらえれば全然大丈夫です」と笑顔で話してくださいました。

また、緊急時の連絡体制についても言及がありました。地域で事件や事故が起きたとき、小学校と保育園・幼稚園の間で情報伝達にタイムラグがあるケースを受け、近隣の学校と保育施設がLINEなどで緊急連絡網を構築す

るよう教育委員会からも働きかけを行っています。通知が届いている場合は、この機会に近くの小学校へ声をかけてみてはいかがでしょうか。

個別の子どもへの対応についても、温かいメッセージをいただきました。就学に不安を抱えるお子さんがいる場合は、保育園から保護者に小学校への相談を促すことが有効です。入学前から連携を取ることができれば、子どもも保護者も安心してスタートを切ることができます。

【石橋課長】「学校は学校、家庭は家庭という時代ではありません。保育園も小学校も保護者も、みんなで寄ってたかって子どもを育てていく。その発想に変えていくことが、これからの子育て支援の根幹だと思っています。」

おわりに

「文化」をつくる一歩

今回の取材を通じて強く感じたのは、教育委員会は決して遠い存在ではないということです。子どもたちの学びをつなぐために、同じ思いを持って動いている仲間がいる。石橋課長も秦主任指導主事も、保育現場からの連絡を心待ちにしています。

架け橋プログラムに「正解」はありません。大切なのは、完璧な準備を待つことではなく、小さな一歩を踏み出すこと。園長先生から校長先生へ電話一本かけることが、やがてその地域の「文化」になっていく第一歩になるかもしれません。

「こどもまんなか社会」——私たちが大切にしているその精神は、小学校との連携の中でもきつと輝きを放ちます。一緒に、子どもたちの学びをつないでいきましょう。

(福岡市保育協会広報調査部)



新規採用職員人権保育研修会で学んだこと

光の園保育園 新入職保育士

講義Ⅰ こども未来局子育て支援部 阿部 恵様の「期待される保育園職員像」の研修を受けて

①期待される保育者像

誰からの期待	具体的な内容	期待される姿
子ども	やさしく接してくれる、一緒に遊んでくれる、気持ちを理解してくれる、笑顔で関わってくれる	子どもに安心感を与え、信頼関係を築ける保育者
保護者	子どもを理解してくれる、安心して預けられる、相談しやすい、様々な経験をさせてくれる	保護者との信頼関係を築き、子どもの成長を支える保育者
園長・職員	クラス運営ができる、職員同士で連携できる、保育技術を高める、園全体を考えて行動できる	組織の一員として責任を持ち、協働できる保育者

日々の関わりの中でつくれる信頼関係

保護者も親である前に一人の人間である

報連相の重要性や仕事・役割の意図を知ることが重要

②信頼関係を築くために大切なこと

対象	大切な関わり
子ども	気持ちを受け止める、笑顔で接する、一緒に遊ぶ
保護者	子どもの様子を共有する、相談しやすい雰囲気をつくる
職員	情報共有を行う。協力しながら保育を進める



③人権について

内容	説明
人権とは	一人ひとりが自分らしく幸せに生きる権利
特徴	生まれながらに持っている権利
平等性	いつでもどこでも誰もが持っている権利
大切な視点	人権は「権利」であると同時に「人の命」そのものである

④保育者として大切な力

力	理由
悩む力	課題や問題に気づくことができる
考える力	子どもにとってより良い援助を考えられる
行動する力	学びを実践に生かせる
振り返る力	保育の質の向上に繋がる



講義を通して、期待される保育者とは、子ども・保護者・職員から信頼される存在であることを学んだ。信頼関係は、日々の関わりの中で築かれるため、子どもの話を丁寧に聴き、気持ちに寄り添うことを大切にしたい。また、保護者にも安心してもらえるよう、笑顔やあいさつ、丁寧な対応に心掛けていきたい。

さらに、人権はすべての人が大切にされる権利であることを改めて学び、一人ひとりを尊重する姿勢を忘れずに保育を行っていきたい。「悩めることも保育者として大切です」という言葉を忘れずに、学び続ける姿勢を持ちながら成長していきたい。

(山田 千聖)

講義Ⅱ ブレインスター人材開発室室長 田木 さと子 様の「心に届く接遇マナー」の研修を受けて

保育に携わる人としての責任

- ・子どもの安全を守る
- ・子どもの発達を支える
- ・保護者との信頼関係をつくる
- ・専門知識を学び続ける

◎新人期に特に意識したいこと

新人であっても、相手の方（保護者・子ども）からするとプロ

社会人としての責任

- ・遅刻をしない
- ・連絡や報告を怠らない
- ・感情的にならない
- ・健康管理をする

◎新人期に特に意識したいこと

体調管理や感情管理も保育の質を支える大切な仕事の一部

組織の一員としての責任

- ・園の方針やルールを守る
- ・周囲と協力する
- ・自分の役割を果たす
- ・園全体の視点で考える
- ・自分の言動が組織を代表しているという意識を持つ

◎新人期に特に意識したいこと

子ども・保護者・地域の方から見ると、職員一人ひとりが“園そのもの”言葉遣い・態度・振る舞いの全てが園の印象と信頼をつくる

保育者は、社会人としての責任や自覚を持って行動することを改めて認識した。新人であっても保護者や子どもからは一人のプロとして見られているからである。私はまだ新人だが、子どもや保護者から一人の保育者として信頼される存在でなければならないと気づかされた。また、自分の言葉遣いや行動が、園全体の印象や信頼に影響することを聞き、日頃から責任ある行動を心掛けたいと思った。今後は、体調管理や感情管理を徹底し、報連相を確実にし、周囲と協力しながらより良い保育につなげていきたい。そして、自分の考えだけで判断せず、多角的な視点を持ちながら、子ども一人ひとりの姿を丁寧にとらえ、育ちを支えていける保育者を目指したい。（武富 和乎）



自分の言動の影響力は大きい
職場は公の場と心得て自身の言動に気を付ける



私の園の取り組み

新星保育園（中央区） 蒲池 知佳子

1949年（昭和24年）約80年前に新星保育園は創立しました。開園以来の指導方針である「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の三大綱領のもと「強い体と強い心」を作る保育を行っています。

子ども達は1年中、半袖半ズボンの薄着で過ごし、園内・園庭では裸足で遊びます。また毎日全園児で行う「ラジオ体操」と、10月から3月にかけては、隣の小学校の広い校庭をお借りし、毎日マラソンを行い「強い体と強い心」づくりを実践しています。

その他、当園の特徴として、音楽の基礎となる「リトミック」を50年前から取り入れ、0歳～5歳児の子ども達が、自己をのびのびと表現し、個性を伸ばしていくことを促し、歌や器楽合奏等の情操教育の土台づくりをしています。

子ども達が何かを習得していく時、まずは、楽しい→やってみよう→好きになる→上手になる、この体験を自分の体で感じとりながら、体も心も豊かに育ってほしいと願っています。

ICT時代を生きる子ども達の将来を思うとき、当園の「信念徹

底」の取り組みが、子ども達の体と心の土台となり、やがて芽を出し、花を咲かせてくれると信じています。



まいづるちとせ保育園（中央区） 綿末 明子

社会福祉法人ちとせ交友会まいづるちとせ保育園は2018年4月に中央区の舞鶴地区に開園しました。法人の理念である「HOME」という言葉には、子どもたち、保護者、地域の方々、職員等園に関わるすべての人にとって保育園が安心できる場所であること、そして第2のお家のように温かく包み込む存在でありたいという思いが込められています。

そんな安心して過ごせる環境の中で、一人ひとりの育ちを大切にしながら子どもたちの「自律性」を育む保育に取り組んできました。

保育内容としては“グループタイム、廃材遊び、ピックブック、集団遊び、物と関わる遊び、カードゲームボードゲーム、象徴あそび”の7つの保育を柱に実践を行っています。

私たち保育者は子どもたちが「やってみよう」と思える場面はどんなものなのかを考え続け、自ら考え行動する力を育ていけるように生活の中での積み重ねを大切に環境づくりをしています。

子どもたちは日々の園生活の中で、うまくいったりいかなかった

りを繰り返しています。そこに保育者が寄り添って声をかけます。「もう一回自分でやってみよう?」「先生と一緒にやってみようか」などの言葉をかけて、今は自分でやりたい気持ちを大事にするのか、先生と一緒にやって次にチャレンジするのも子どもたちが選択していきます。自分で選んだ方法を尊重してもらえたことで子どもたちは安心して目の前にある課題に取り組む姿を見かけます。

子どもたちの「やってみよう」の気持ちを尊重することは、信頼関係を深めていくことにもつながっているように感じます。このようにみんなで子どもの成長を支える保育を実践していくために同法人内での研修にも取り組み、同じ年齢のクラスを担当する保育者同士で悩みを相談し合ったり、実践した保育を見合って学びにつなげています。

法人全体、福岡エリアにある4園みんなで子どもの育ちをささえていく保育を実践していくことで1人で考え悩みを抱え込むことを減らしていけるのが、ちとせ交友会の理念「HOME」にもつながっています。

編集後記

6月2日、広報委員6名が市役所のロビーに集合しました。教育委員会の取材のためです。台風6号の影響が心配されましたが、予定通りお邪魔することができ、和やかな雰囲気の中で約1時間、ざっくばらんに話を伺うことができました。

さて、これをどうまとめるのか。1時間におよぶ会話です。もちろん私も必死にメモを取りましたが、全てを正確に記録はできず、「原稿担当になりませんように」と祈るばかり。

翌日3日に早くも広報委員会が招集され、そこで登場したのがAです。委員の1人が前日の取材を録音したものをAが要約し、修正を重ね、第1稿を作成してくださったのです。テクノロジの力に驚き、ありがたさを感じました。が、Aに感謝して終わり、ではありません。保育関係者として、Aがまとめた内容の正確さについて、（Aは省いたけれど）保育者として原稿に残したい言葉について、委員全員で丁寧に話し合いました。

こうしてAと保育者の共同で生まれたのが4ページの『教育委員会ってどんなところ?』です。ぜひ一読下さい。

川寄 若（内浜保育園）

～感想やご意見はこちらにお送りください～

【保育協会メールアドレス】 kyoukai@hoiku.or.jp